

# 健康解析学講座 薬剤疫学分野 / デジタルヘルス学講座

Kyoto University Graduate School of Medicine and Public Health  
Department of Pharmacoepidemiology / Department of Digital Health and Epidemiology

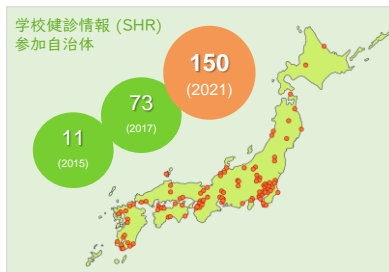
当教室は、臨床疫学研究を推進し、薬剤疫学も標榜する国立大学で唯一の講座です。

レセプト・DPC・電子カルテ・調剤等の大規模医療データベース・学校健診等の健診情報データベースといった豊富な基盤をもとに、臨床疫学や薬剤疫学の研究手法を活用し、エビデンスに基づいた医療の基盤となる研究を力強く実施しています。医療現場や公衆衛生上のリサーチクエストをもとに、医薬品や医療技術の有効性や安全性に関するアウトカムリサーチ、診療実態や医療の適切性評価、学校健診情報を用いた疫学研究および政策科学研究など幅広い領域をカバーしています。

今後、社会において、医療・産業・政策等を担うための新医学を志す大学院生や若手研究者をお待ちしております。



教室メンバー（2022年4月）



参加自治体数 (2021年)



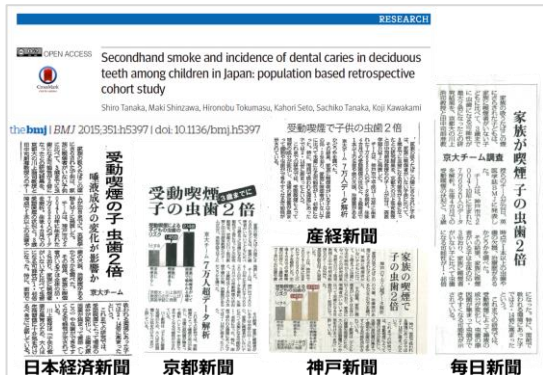
ライフコースデータの確立

**指導教員陣容:** 教授2名 (医師、生物統計学)、准教授1名 (臨床疫学、小児科)、講師1名 (疫学、公衆衛生学)、助教4名 (薬剤疫学、総合診療医・外科、耳鼻咽喉科、政策科学)

**これまでの所属教室員のバックグラウンド:** 小児科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、消化器内科、腎臓内科、腫瘍内科、消化器外科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、救急診療、歯科、薬剤師、看護師、製薬企業 (出向・くむ)、新卒等

**教室出身者のキャリアパス:** 教授6名 (札幌医科大学、岡山大学、京都大学、長崎大学、慶應義塾大学、長浜バイオ大学)、准教授3名 (滋賀医科大学、同志社大学、京都大学)、講師3名 (鹿児島大学、大阪歯科大学、京都大学)、国立循環器病研究センター、PMDA、製薬企業等

**使用している医療系データベースと構築している情報:** 電子カルテDB (2300万人)、診療報酬請求レセプト情報 (700万人)、DPC (3000万人)、調剤薬局情報統合 (大手5社3500万処方箋相当)、母子保健情報 (4万5000人)、学校健診情報 (150自治体20万人)、介護入所時情報等



自治体における健診情報を用いた疫学研究は、英国 BMJ 誌に掲載され、新聞やテレビで紹介されました。

## 研究成果 (抜粋)

### 内科系

1. 糖尿病患者における SGLT2 阻害薬のリアルワールドデータにおける腎予後研究 (Mayo Clinic Proceedings)
2. 冠動脈ステント留置後のフォローアップ検査と心血管イベント (Heart Vessels)
3. 高齢者における不適切処方と予定外入院に関する自己対照ケースクロスオーバー研究 (Drug Safety)

### 外科系

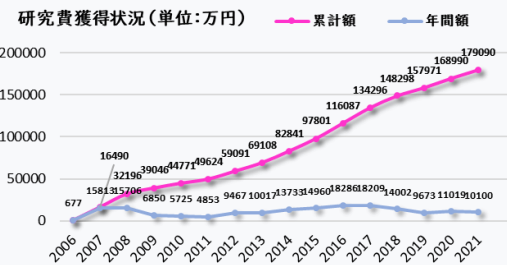
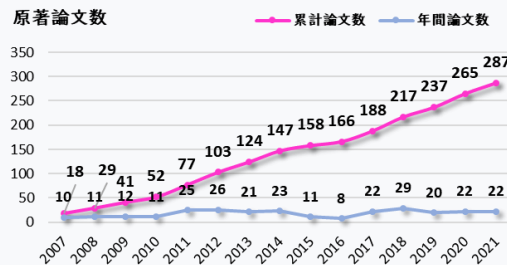
1. 腹腔鏡下手術患者における癒着防止剤の腸閉塞予防効果に関する後方視的コホート研究 (Surgery Today)
2. 若年発症舌癌患者の予後に関する過去起点コホート研究 (Oral Oncology)
3. 妊婦の急性虫垂炎に対する保存的治療と虫垂切除の臨床予後に関する研究 (World Journal of Surgery)

### 麻酔・集中治療領域

1. 心肺停止蘇生後の低体温療法中における経腸栄養の有効性 (Resuscitation)
2. 大腿骨頸部骨折の術前心臓エコー検査と院内死亡 (Anesth Analg)
3. 食道切除術中のシベラスタット投与と院内死亡 (J Anesth)

### 小児科および母子保健

1. 乳幼児の睡眠時間および就寝時間が3歳児の齲蝕発生に与える影響の検討 (J Pediatr)
2. 妊娠中の抗うつ薬使用と子どもの自閉症スペクトラム障害 (Matern Health Noenatol Perinatol)
3. 免疫グロブリン療法後の川崎病患者におけるヘモグロビン値の変化 (Pediatr Drugs)



川上研設置2006年以降の研究業績 (英文287編) および獲得研究費 (17億9090万円)

